

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和6年5月15日

山口県知事 様

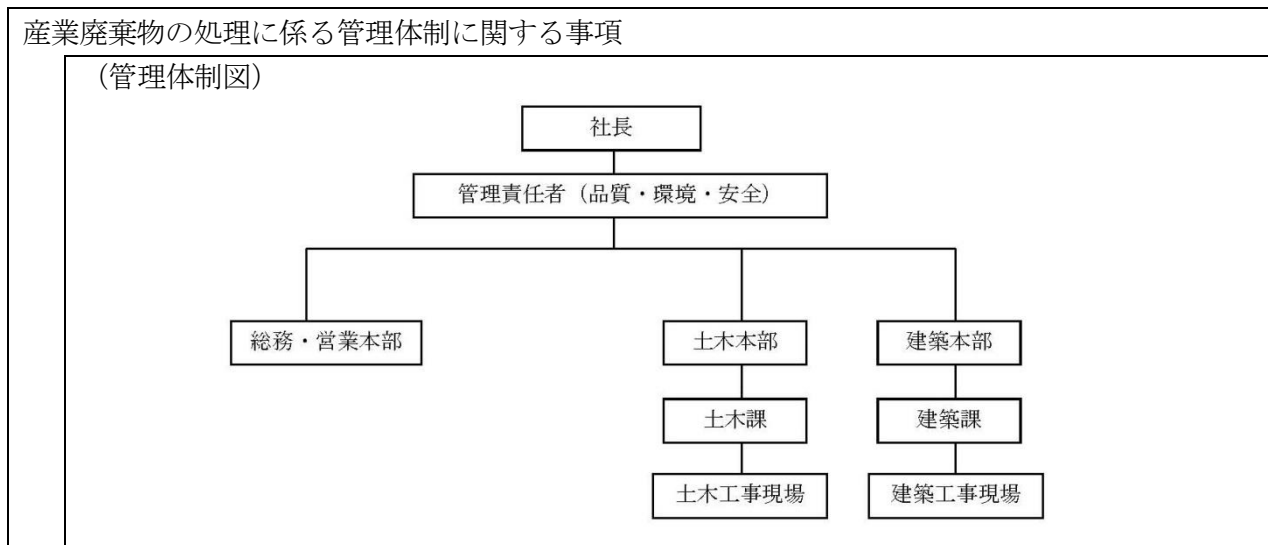
提出者  
住 所 山口県長門市東深川1967番地の2  
氏 名 安藤建設株式会社  
代表取締役 安藤 繁之  
電話番号 0837-22-4067

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	安藤建設株式会社
事業場の所在地	山口県長門市東深川1967番地の2
計画期間	令和6年4月1日 ~ 令和7年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	総合工事業																								
②事業の規模	88,000万円																								
③従業員数	60名																								
④産業廃棄物の一連の処理の工程	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">木くず</td> <td style="width: 30%; text-align: center;">→</td> <td style="width: 30%;">埋立処分委託</td> <td style="width: 10%;"></td> </tr> <tr> <td>がれき類</td> <td style="text-align: center;">→</td> <td>破碎処理委託</td> <td style="text-align: center;">→</td> </tr> <tr> <td>廃プラ</td> <td style="text-align: center;">→</td> <td>埋立処分委託</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金属くず</td> <td style="text-align: center;">→</td> <td>破碎処理委託</td> <td style="text-align: center;">→</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">再資源化</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">再資源化</td> </tr> </table>	木くず	→	埋立処分委託		がれき類	→	破碎処理委託	→	廃プラ	→	埋立処分委託		金属くず	→	破碎処理委託	→				再資源化				再資源化
木くず	→	埋立処分委託																							
がれき類	→	破碎処理委託	→																						
廃プラ	→	埋立処分委託																							
金属くず	→	破碎処理委託	→																						
			再資源化																						
			再資源化																						



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙2-1のとおり	
	排出量	4,103.66 t	t
	(これまでに実施した取組) 分別を徹底し、混合廃棄物（最終処分）量を抑制している。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙2-1のとおり	
	排出量	1,000 t	t
	(今後実施する予定の取組) 分別の徹底に加え、再資源化の促進に努める。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) がれき類は分別するとともに、石綿含有産業廃棄物についても、他の廃棄物に混入しないように個別作業の実施。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 上記に同じ。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

## (第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	100 t	t
	(今後実施する予定の取組) がれき類は分別するとともに、他の廃棄物が混入しないよう分別作業の徹底。		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙2-1のとおり	
	全処理委託量	4103.66 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	2,883 t	t
	再生利用業者への処理委託量	1,090.5 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
(これまでに実施した取組) 委託基準に従い、産業廃棄物を委託できる業者を選定し、書面による契約の後、処理実施。			

②計画	<b>【目標】</b>		
	産業廃棄物の種類	別紙2-1のとおり	
	全処理委託量	900 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	900 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>再生利用可能である廃棄物は、再生利用可能な処理業者へ委託する。 委託先処理業者の選定には、現地確認及び契約による書面の確認を実施する。</p>		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

多量排出事業者の産業廃棄物処理計画書(補足)(令和6年度計画)

別紙2-1

多量排出事業者 名称	安藤建設株式会社	所在地(市町名)	長門市	事業の種類	総合建設業
------------	----------	----------	-----	-------	-------

(単位:トン)

区分	種類	排出抑制に関する事項		自ら行う再生利用に関する事項		自ら行う中間処理に関する事項				自ら行う埋立処分等に関する事項		処理委託に関する事項										
		排出量		自ら再生利用を行う産業廃棄物の量		自ら熱回収を行う産業廃棄物の量		自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量		自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量		全処理委託量		優良認定処理業者への処理委託量		再生利用業者への処理委託量		認定熱回収業者への処理委託量		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		
		現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	
産業廃棄物	燃え殻																					
	汚泥	224										224				224						
	廃油																					
	廃酸																					
	廃アルカリ	0.16										0.16										
	廃プラスチック類	264	400									264		257		257						
	紙くず	101										101		101		92						
	木くず	2,954										2,954	400	2,238			400					
	繊維くず	3										3		3								
	動植物性残さ																					
	動物系固形不要物																					
	ゴムくず																					
	金属くず	1										1		1		1						
	ガラスくず、コンクリートくず、陶磁器くず	8										8		8								
	鋳さい																					
	がれき類	548.5	600								100	548.5	500	275		516.5	500					
	動物のふん尿																					
動物の死体																						
ばいじん																						
13号廃棄物																						
計 (A)	4,103.66	1,000	0	0	0	0	0	0	0	100	4,103.66	900	2,883	0	1,090.5	900	0	0	0	0		